

今月の 我がマチの 一番星☆



多目的スポーツセンターでの練習風景(右端が佐賀さん)



佐賀順悦さん

できることから始める
ボランテニア

追分花園に住み町内の建設会社で働く佐賀順悦さんは、町内会の役員や少年補導員など地域のために活動している社長の影響を受けて、自分ができることに取り組んでいきたいと日ごろから感じ、活動を始めたそうです。高齢者に給食を届けるボランテニアにも協力しています。

また、中学時代にソフトテニス部に所属していた経験を生かし、週に3回小学生の指導を手伝っています。女子が参加できるスポーツが少ないため、女子を中心に20人ほどが練習に来ており、「小さな子どもならではの練習法など、試行錯誤しながら日々取り組んでいます」と佐賀さんは言い、遊びの要素を取り入れ、子どもたちを飽きさせないことにも気を使っているとのこと

自分にあったスポーツとの出会いを求めて



松山健治さん

「生涯スポーツとして誰でもできる競技を模索していたんです」と話す松山健治さんは体育指導委員として20年以上町のスポーツ振興に尽力してきました。そんな中で出会ったのがペタンク。講習会で研修を受け、地元で有志を募り普及に努めたといいます。

中学時代からバレーボールをしていた松山さんは、スポーツの魅力を伝えるには、その種目を好きになることだと、技術力の向上を目指しました。「ペタンクは、練習を重ねるうちに頭を使うスポーツでイメージトレーニングが身につく」と実感。「地元で全道大会が開催され、競技人口も増えて全国大会に出場するなど選手の上達はめざましい」と喜び、昨年ねんりんピックの全国大会が開催され、多くの方に感謝しています。

「冬季オリンピックで有名になったカーリング競技ですが、頭脳プレーと相手チームとの駆け引き、チームワークなどで人気が出てきました。ペタンクにも共通するものがあります」とPR。「しかし、カーリングの場合、専用の器具や施設そして実施できる時期を考えると、ペタンクのほうがグラウンドがあれば手軽に楽しめます」と語ってくれました。冬期間はビニールハウスの中でゲームをしているとのこと。

スポーツの底辺拡大について、松山さんはきっかけ作りが大切だと言い、ABIRA ミクニカップキッズアイスホッケー大会の発足に関わってきました。

「少年時代から体を動かす経験を積むことで生涯にわたりスポーツを楽しむことができる。さまざまなスポーツの中でその人に合った種目との出会いは人生を有意義にしてくれる」と笑顔で答えてくれました。



ねんりんピック大会役員として(前列右から3人目)

とです。「旭川や当麻町などに中学生の強豪チームが多いのは、小学生から始めていることが要因の一つですね。安平町はソフトテニスの愛好家が多い。多目的スポーツセンターで室内練習ができ、スポーツ環境は整っています」

と喜ぶ一方、「テニスは専用のシューズやラケットを購入しなければならず、ボールを買う経費もかかり、年に5〜6回の大会に出場するので親の負担も大きい」と言います。「家族や会社の理解があるからこそのできるボランテニア活

動です。給食の宅配サービスとソフトテニスの指導の共通点は自分が必要としてくれる人たちがいることだと感じるようになり、期待されることで続ける元気が生まれてきました」と充実した活動を語っていました。